

# まぼろしへのかけはし

基本理念 希望のある医療

## 腎センターのご紹介

当院腎センターは透析医療の草分け的な存在である後藤武男名誉院長を中心に、昭和44年に透析室として開設され、長年多くの透析症例に対応し実績を挙げてきました。

地域の医療機関との連携を大切に、透析導入期の患者さまや入院が必要な透析患者さま(合併症・各種手術など)を受け入れ、透析領域においても地域の中核病院としての役割を果たせるよう努力しております。

現在、当院では毎月約100名の血液透析患者さまと28名の腹膜透析(PD)患者さまが透析療法を受けておられます。平成22年には、血液透析は年間延べ14,710回実施され、腹膜透析外来受診は延べ505件でした。

### 腹膜透析(PD: Peritoneal Dialysis)

腹腔内にチューブ(カテーテル)を留置してから、そのチューブを通して透析液を注入する治療法のこと。自宅などでの透析が可能です。



(腎センタースタッフ)

廣末好昭医師、金光律和医師を中心に、看護師、臨床工学技士によるチーム医療を強化し、医師はもとよりスタッフ全員が安全で質の高い透析医療を提供するため、知識・技術の向上に努めています。

その中で透析療法指導看護師や透析技術認定士といった認定者も増え活躍しています。

透析を受けながらよりよい生活を送っていただくために、看護師が日常生活やシャント管理の指導、透析体操も行なっています。

そして、平成20年より不測の災害に備え、火災や停電時の訓練を実施し、患者さまにより安全な透析環境を提供できるよう努めています。

予約制の腹膜透析外来は毎週水曜日にあり、さまざまな相談もお受けしています。

今後も、一層研鑽を積み慢性腎臓病から透析維持期にいたるまで、さまざまな不安や悩みをお持ちの患者さまに対応し、共に取り組んでいきたいと思っています。



(停電時訓練の様子)

腎センター看護課長 岸美鈴

# 緩和ケアチーム

## 第18回日本ホスピス・在宅ケア研究会

今年度、当院の緩和ケアチームは日頃の活動内容を発表するため、平成22年7月10日～11日に第18回日本ホスピス・在宅ケア研究会(開催地:鳥取市・とりぎん文化会館)に参加しました。

この研究会は、がんや在宅ケアなどの医療や福祉の諸問題について、専門家と市民が同じ目線で考える会です。

患者、市民、教育者、医療従事者などのさまざまな立場の方々が毎年4,000～7,000人参加されています。

研究会で発表されたさまざまな考えを基に、緩和ケアへの取り組みを続けていきます。

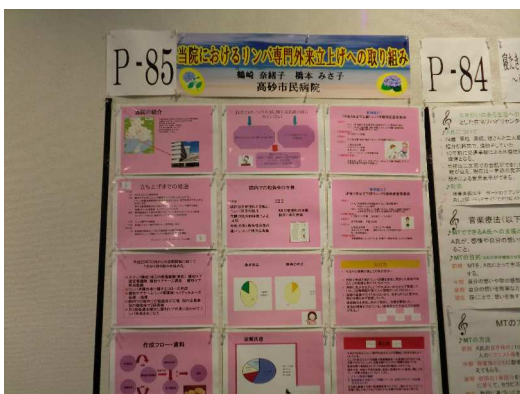


### 当院から次の演題を発表しました



「当院における緩和ケア認定看護師の  
活動報告及び今後の課題」

橋本みさ子 緩和ケア認定看護師



「オレンジの風船」は、緩和ケアの正しい知識を広める

「オレンジバルーンプロジェクト」の目印です

「当院におけるリンパ専門外来  
立上げへの取り組み」

鶴崎奈緒子 看護師(リンパドレナージセラピスト)

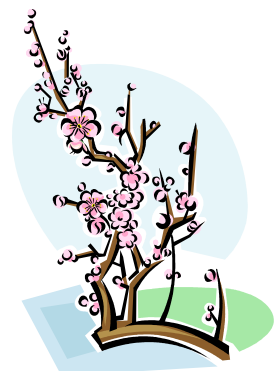
「きぼうへのかけはし」に関するお問合せは、  
地域医療連携室までお願いします。

連絡先 〒676-8585 兵庫県高砂市荒井町紙町33番1号

TEL 079-442-3981(内線5146)

FAX 079-443-1401

ホームページ <http://www.hospital-takasago.jp/>



### 担当者のつぶやき ~地域医療を守るの一人ひとりの心がけ~

毎日厳しい寒さが続いています。山陰地方は大雪で生活にも支障がでて大変な様子です。

先日ご近所で、蠟梅がいい匂いをさせてきれいに咲いているのを発見しました。少しずつですが春が近づいていることを感じ、ホッとしました。今年はどうな四季をつづることになるのでしょうか！

医療・福祉・経済も就職も、今年も厳しい状況ですが“春がこない冬はない”を信じ、前向きに頑張っていきましょう。(S)